

泉小中校長・CS会長・広報部長で座談会!

# 地域と学校と、 子どもたちが 育ち合う。

今年度から、泉小学校と泉中学校の  
合同で、学校運営協議会（コミュニ  
ティ・スクール）がスタート! 泉小の  
板山校長と泉中の石川校長、小宮  
山協議会長、浅川広報部長でこれか  
らのコミュニティ・スクール（以下、  
CS）について意見を交わしました。  
CSの愛称は『泉わくわく・プロジェ  
クト』。泉が湧き出てくるように、地域  
と学校がワクワクしながら共に育ちあ  
いたい……。そんな願いが込められ  
たプロジェクトです。

## CSっていったい、何だろう?

**浅川** まずは中学校も一緒に活動できることになったので、自己紹介から始めましょう。

**小宮山** 学校運営協議会が6年前に立ち上がって、コロナ禍で寂しい思いもしながら、会長を拝命して3年目になりました。CSは保護者や地域の方が気軽に参加してもらえる楽しい活動にしたいと思っています。

**板山** 4月から泉小校長として赴任しました。泉中とグレードアップして共にコミュニティ・スクールに関われることを幸せに思っています。

**石川** 4月から泉中校長になりました。泉中では、泉小で知ってもらったCSを、言葉としてだけでなく浸透できるように、さらに中学独自に何ができるかを考えています。

**小宮山** 毎年、保護者の皆さんから学校評価にお答えいただいておりますが、その中で、「学校運営協議会（CS）ってどんな組織ですか?」という質問がありました。そこで皆さんへ端的に説明できるよう考えてみました。『地域と学校が共に育つ』。『共に育つ』がCSのキーワードです。地域が学校に関心を持つだけでなく、学校からも地域に関心を持ってもらいたい。地域に信頼され、期待される学校へ。「学校のために何かできるかな?」そんなふうに地域の皆さんに思ってもらえるように、「学校に関わることは楽しいことですよ!」とお伝えしたいのです。

**浅川** 「共に……」というのがCSの願いですね。

**板山** 山梨には、『まるかって』という方言があります。刈った草を丸くひとまとめにする、たとえばイメージしやすいかと思います。ひとつになって、団結して成し遂げる、という意味です。わたしはこの『まるかって』という言葉が大好きでCSを考える時のベースになっています。外部の方とCSの話をした時に、「泉には、地域に学校を育てる素地があるから」と言ってもらったことがあります。もうひとつ、『きょういく』の話をさせてください。『きょういく』には3つあって、まず、『教育』。そして、共に、の『共育』。最後に、協力して、の『協育』ですね。これらがうまくことまわってCSなのだと思っています。地域があり、その上で成り立つ学校です。

**石川** 学校には生徒の安心安全のための人員的な支えがあるとありがたいです。一方で、子どもたちには様々な経験をさせてあげたい。子どもたちの姿を見てもらいながら関わっていただけるようなCSの形を考えていきたいです。今年、職業体験が再開されます。一部制限もありますが、子どもたちを受け入れられますよと、地域の方々から声をかけていただいているところです。

**浅川** 大泉には、いろいろな職種の世界へ誇る人材がたくさんいますからね!

## あいさつって、うれしい。 CSの『あいさつ運動』。

**浅川** CSの具体的な行動目標のひとつに『あいさつ運動』がありますね。



板山校長と石川校長は、高校時代、部室がお隣同士だったとのこと。「石川先生はスケート選手で有名な人、トレーニングではすごく大きなバーベルを持ち上げていましたよ!」板山校長は、陸上部で短距離選手でした。小宮山会長と浅川部長もそろっての座談会は泉小校長室で行われました。

撮影のためにマスクをはずしてもらいました。

**小宮山** あいさつってなぜするのか? あいさつは人間関係を築く入り口ではないでしょうか。

**板山** 家庭でも地域でも、ぜひおとなからやわらかい声と表情であいさつをしてもらいたいです。地域の方からあいさつされることは、子どもたちにとって最初は緊張することでしょう。けれど、笑顔で声をかけてもらえたら、そして2日3日とあいさつを継続してもらえたら、それは安心につながります。あいさつは、子どもたちがネットワークをつくるきっかけになり、判断力を養う力にもなります。

**石川** 泉中の生徒のあいさつは、泉小の取り組みからつながっていて、登下校で校長室の前を通る時にもたくさんあいさつしてくれます。あいさつするとうれしいし、目があれば笑顔でね。誰とでもすぐできるのが、あいさつ。コミュニケーションの第一歩。何もなくてもできること。

**小宮山** 地域のおとなには、子どもたちに関心をもってもらいたい。「しょっちゅうわたしにあいさつしてくれるあの子は、どこの誰ぞら?」ってね。そこで子どもの名前がわかると、世界が広がるじゃないですか。わたしも先日、ふるさと大行進のお手伝いをしました。3・4年生の児童70名を前に谷戸城の説明をすごく楽しかった。新しいことに挑戦するっていうよりも、自分も持っているものをリニューアルするっていうのかな。子どもたちにとっても、多少は勉強になったし、やらせてもらったほうも楽しかった。それがCSの『共に育つ』っていうことかな。「地域の皆さんにも1年にいっぺんくらい学校に来て、なにか手伝ってくれませんか?」って。

## さらに地域へひらかれた学校に。

**板山** 学校はこういうところなのだ、子どもたちはこんな表情をするのだ、ということを地域の方々に知っていただくことが大事だと感じます。

**浅川** 学校を地域の交流の場に。

**板山** そうです。先ほど『きょういく』の話をしましたけれど、ぜひ学校に足を運んで協力していただきたいのです。『協育』ですね。

**石川** コロナ禍以前は、1学期終了の時期に小中学生が地区ごとに集まり、夏休みの過ごし方などを確認する時間を設けてきました。中学生が自主的に話をまとめる姿を見て、「ぼくたちもあんなふうになれるのだな」と小学生が感じられるよい機会でしたよ。地域の育成会や民生児童委員等の方々にも、見守りとしてその話し合いに関わってもらっていました。

**小宮山** 小中学生の縦割りの活動も、ぜひ持続可能的に残したいです。保護者から地域の方を紹介していただきながら、少しずつCSの輪が広がっていくといいですね。

**浅川** 本来の人間としての子どもの姿を大事にしたい、そんな学校であってほしいと願っています。そして常に地域の方と交流できる場として、地域にひらかれたコミュニティ・スクールであるために共に考えていきましょう。